

以上の表から考へると、製造主銀行の商品に買手が減つてくるために、過剰生産による増大  
債上回ひ強く、ブチアタルことになるのは当然である。この時、資本家は、労働者が餓死するまで、賃銀を  
切り下げることに努める生産費を安くして、外国商品との競争に勝利を得ようとするであろうし、

本主義が、永久的な資本の値を前進してゐると云ふ理論は成り立たないものである。  
注：本主義は、労働賃銀とこの地味も永遠にブチアタルのは、競争の件として、富者も抗議し、  
口、

益といふか、取つてしまふ。一労働者の生活は向上したであろうか、労働者の賃銀の動きと物価の値上りとを  
比べてみると

定額賃銀	八八・一	実収賃銀	八八・一	小費指数	六九
------	------	------	------	------	----

七年平均	八五・一	八年平均	七三
------	------	------	----

右の如く物価は七年から八年に四上つてゐるのに、実収賃銀は二上つてゐるにすぎない。物価の値  
上りと実収賃銀との差があることは、皆前労働者の賃銀が切り下がり水とと同様であつて労働者の生活  
は苦しくなつてゐることになる。従つて労働者は生活ヨメゴの斗争に起ち上つてゐる。之を争議にしてみると、

七年	一九二八件	九万八千八百五十八	八年	一六三八件	十万二千六百六十二
----	-------	-----------	----	-------	-----------

昭和八年に於て争議の件数が減つてゐるのは、非常時の美名の下に労働者は眠りこませられ、また  
單なる生活擁護斗争に対しては、資本家階級の残忍な弾圧が下され勝ちとなるのである。

尚ほ、争議件数のうち、賃銀値上を中心とする、要求斗争は、七年の三五四件から



更に、本品の  
武力(争議)  
犠牲者  
始り、資本家  
争ひ、外  
争ひ、外  
争ひ、外